



保育の方法で大切なこと

- ・子どもの主体としての思いや願いを受け止める
- ・自己を十分に発揮できる環境
- ・子どもの個人差に十分配慮する
- ・集団における活動を効果あるものにするよう援助する
- ・生活や遊びを通して総合的に保育する
- ・親子関係や家庭生活等に配慮しながら適切に援助する

例) 3歳児運動会練習

保育者が手を引いて線の上に並ばせたり、全員で同じ動きの練習をしている。

→大人が皆同じことをすることがよいと望んでいる。

そうではなく、子ども自身が友達と一緒にいると嬉しい、心地よいと思うことが大切

→この根っこが乳児保育。一人一人を大切にしながら他者と過ごす心地よさを感じられる保育をしていく。

子どもの発達を支えるとは

- ・子どもがやりたいことが叶う(叶っていく)よう支える
- ・子どもが自分自身でできることから、少し手伝うとできることを支える

→この行為が教育

保育者の役割として



子どもの精神
安定の拠り所



憧れを形成
するモデル



子どもの共同作業者、
子どもと共鳴する者



子どもの
理解者



子どもの遊び
の援助者

遊び再考

- ・物との関わりから遊びを考える（環境構成）
- ・人との関わりから遊びを考える（直接的援助、言葉掛け）

遊びを通して

- ・楽しい経験の積み重ねが、次への意欲につながっていく
- ・遊びがより楽しくなるように保育者が共に考え、工夫し環境を構成する

遊びは

- ・心身の発達を促すものである
- ・コミュニケーション能力などの社会性が育まれる
- ・想像力、表現力が養われる

演習

子どもは何で遊んでいる？遊びって何がいい？



受講生より

友達に興味をもってまねして遊ぶ姿があります。色々な体験を通して新しい発見や、感情になることで社会性が育つのではないのでしょうか。

他者の気持ちをわかってほしいと、大人は願うが、それを押し付けてはいけません。相手が笑顔になると心地いいんだな、とまずは他者に関心を持つことが大切。これも遊びの中で培われていきます。結論を急がなくて、子どもが感じる時間を大切にしましょう。

講師より



乳児の遊び環境

- (1) 安定した穏やかな雰囲気の中で自由に遊べること
- (2) 安全性や清潔が保たれていること
- (3) 発達を捉え、一人一人を理解すること

子どもの好きな遊びとは？
好きな遊びを見取る視点

したいこと

お気に入りの場

お気に入りの物

お気に入りの人

遊びの場を共有するということ

同じ場で同じことを交わらないで行っているが、相手のことも気になる時期。意図的に遊びの場が共有できるような空間(お互いが見あえる場)をつくる。



乳児の遊びの環境とは

- ・なりきって遊べる環境(色々なものに見立てられるもの等)
- ・多様な動きのできる環境(押す、引っ張る、バランスをとる等)
- ・くつろげる環境(落ち着いて絵本を読んでもらう等)
- ・自然とふれあう環境(室内ではできない五感を使った経験等)

現代は、より快適に過ごせるようにするために、本来使わなければいけない感覚を取り残しているかもしれない。だからこそ、五感を使った遊びの経験を保育者が用意していくことが必要

環境構成と再構成～見直しの方法～

- ・日誌などの記録から
- ・写真や映像から
- ・語りから(保育の雑談の中で)



子どもは何を
楽しんでいる?

共有



面白がったり夢中になっていることは?

もっと楽しくするにはどうする?

子どもの姿→ねらい(願い)→環境構成→主体的な活動
→子どもの姿→再構成→子どもの姿→...

保育者の関わりとして

保育者のねらいや願いをもって保育をするが、その意図が強すぎるとやらせになってしまう。 →バランスが大事
子どもの思うままに、を尊重しすぎると、ただの放任になってしまう。

保育者の援助

【間接的援助】環境構成

【直接的援助】働きかけや言葉かけ



関わる⇒きっかけづくり 一緒に行く(子どもが主体で行う)
言葉をかける⇒聞いてみる 促す
見守る⇒見通してみる(大人が見通しをもつことで初めて成立する)
肯定的に見て共感することで「やってみよう」という気持ちになる

「やりたい」から「できた!」を支える工夫

空間

十分なスペース

時間

個々のペースに合わせるゆとり

流れ

見通しをもった保育

子どもの興味・関心を理解し、その時の育ちの特徴を踏まえることで、育ちの方向性を考えていく
子どもの育ち(たい方向)を支える→保育のねらいに繋げる

ポジティブな言い換え

子どもにやってほしいことをそのまま言葉にする



走らないで!



歩こうね!広いところに走りに行こうか



片付けないとおもちゃ渡さないよ



お片付けしてから~しよう



まとめ

- ・安定した関係の中で子どもとよく触れ合い
- ・子どもの育ち(発達)を知る/今の興味・関心を知る⇒育ちへの見通しを持つ
- ・保護者と子どもの育ちを共有する

子どもの良さを伝え、育ちを共有することで、子どものことをよく見ていることが伝わる(信頼関係の構築) →良好なコミュニケーションに繋がる。

・場を共有すること ・道具、遊具の特性(汎用性の高い物) ・養護と教育の一体化(うれしいねの連続)

ポイント



場を共有することでの他者への関心
わたし から わたしたち(気の合う友だち)
わたしたち から みんな(クラスの友だち)

「心地がいいね」と他者と心が通うことが1歳児のテーマ

保育はチームで行うものです(特に3歳未満児クラス)。クラスでも、クラスでなくとも、保育者同士が頼ったり頼られたりする関係の中で保育されていくことを願っています。子どもを真ん中にして、保育がもっと楽しくなるように。



受講生の報告書より

子どもたちと笑い合う瞬間を大切に保育をしています。「楽しい感情を共有することで人との関係がつくられる」「楽しい経験の積み重ねが、次への意欲につながる」と先生が言語化してくださることで、自分の保育を振り返りこれでいいんだと思えたり、足りていないなど反省したりしました。子どもの願いを見取りながら、やりたいことが叶うための働きかけを考え、実践していきたいと思いました。